

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ③〇
『部屋の模様替え』

「コロナがピークを迎えた」「コロナが減ってきた」毎月繰り返して言ってきました。それでも第七波はピークアウトを迎えず、津島市の学校でも子どもたちが陽性となったり、濃厚接触者となったりして人数が大きく減りません。運動会や学校祭の準備もあり、早目の収束を願うばかりです。

そんなコロナ禍の中、市内の先生方には夏の研修をお願いしました。一つはプログラミング教育の研修。子どもたちが論理的思考力（筋道を立て考える力）を身に付けるための学習です。ロボホンとレゴブロックのAIロボットを組み立て、動かすことで学習の見える化を進めました。全小中学校で実施しました。試行錯誤の中、素早く動くロボットとなりました。

二つ目は人権教育に関する研修です。津島市では「人権を尊重するまちづくり」が大きな柱となっています。先生方には、差別の歴史と実態、トランスジェンダーの方をめぐる問題について考えていただきました。トランスジェンダーを経験した方からの講義、その時の気持ちについても伺うことが出来ました。

コロナ禍の中、今年の夏休みどんなことができましたか。私はラジオ体操を毎日行うことができました。七月は天王川公園で、八月は自宅で行いました。五回実施した『日本語教室 FUJICA』に出席でき、新しい外国籍の子どもたちと日本語の学習ができました。話題となっていた映画を三本見に行くことができました。特に『乙女たちの沖縄戦—白梅学徒の記録—』は私が校長をつとめていた頃の教え子が出演していたこともあり、感激して見ることができました。島崎藤村の『破戒』も現代的にアレンジされていましたが、差別の問題を考えることができました。

夏休み最後の土曜日・日曜日に、教育長室の絨毯を撤去して、綺麗なカーペットにさせていただきました。多分庁舎が建って以来、50年ぶりの模様替えとなりました。カーペットを替えるためには、すべての荷物を出さなければなりません。荷物を見ていると歴代教育長さんたちの思いを知ることができました。あらためて先輩諸氏の思いを受け継いだ気分となりました。お陰で教育長室の書籍や書類の整理ができ、使い勝手がとてもよくなりました。模様替えは心の持ち方をチェンジし再起動する時間となりました。

パソコンを再起動する秋の風
秋風や三年先に夢ノート
散髪のタオルは温し秋日和

令和4年9月6日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視